

博士論文要旨

論文課題：マンハッタンのスカイスクレーパーの社会政治的な意味に関する研究

著者：デュベージ・ラナ ナデイム

博士後号 D3

研究の目的・概要：

都会が発展する中で、様々な社会政治的な意味が存在する。この建築と社会政治的な関係の一つを表すため、マンハッタンのスカイスクレーパーの歴史、造り方、法律や社会に与える影響等を分析して、研究を行いました。

スカイスクレーパーの自主的な存在が都会のダイナミックな**実況**や経験を阻ませてしまうのである。これは、スカイスクレーパーのカビの内に一つの自主的な都市が在中され、都会全体が民主的に存在をするチャンスが滅殺するのではないかと考えられる。言い返すと、都会そのものに貢献するよりもスカイスクレーパーによって都会のダイナミズムが消えていくと考えられる。

この研究がスカイスクレーパーの建築そのものを深く分析するよりも、このような建物における社会政治的な環境を焦点に当てる。例えば、スカイスクレーパーの場合は、建築の領域で通常に決めるビル設計、形、材料等が美的な原則から離れる。むしろ、建築家が顧客のバランスシートや目的に従って、ビルを建つ。その中で様々な社会政治的な意味が出てくる。

この研究では、スカイスクレーパーの中に隠してある意味を表すだけでなく、このような建物の**権力的、レベルの高い技術を使い**イメージに対して、スカイスクレーパーの *vulnerabilities* や都会をデザインする建築家の無権力を示す。

建築家がコンシューマ世界からの影響を避けることができない。彼らが**ある程度**大衆的なカルチャーによってビルをデザインする。それにしても、この大衆的なカルチャーをできるだけ避ければ、新しいもの作り出す夢を忘れないことができる。

大衆的なカルチャーを立ち向かわないことによって、想像力がなくなる。その結果、消費者の個人的な好き嫌いもなくなり、受身的に環境を吸収するようになる。大衆的なカルチャーに適うことに伴って、そのカルチャーの存在感が認められて、延長させると考えられる。しかし、実はこのようなフェイク文化的な統一化の中で、クライシスが行われているが、このクライシスが隠してあて、境にある不利を見せている。スカイスクレーパーの分析ではこのクライシスを暴き出し、建築と社会政治的な意味の絡み合いについて議論できる。

具体的な事例としてはマンハッタンにある Empire State Building である。このス

カイトスカイスクレーパーの構築に結び付いている社会政治的な物事や、このビルの意味合いと意義について焦点に当てる。1920年代に語ったように、商業、文化や民間の生活等の区別が縮まっていて、スカイトスカイスクレーパーの誕生や発展によって、拡大している都会に新しい建築的な機能や解決を提案していた。

研究方法・分析：

- 歴史においてスカイトスカイスクレーパーの、政治的にも含んで、様々な意味を分析する。Hugh Ferriss (DATE) の議論から始め、「一番高いスカイトスカイスクレーパーを造る」という戦いについての分析。
- スカイトスカイスクレーパーの誕生そのものについての分析。
- 法律や規則がどのようにスカイトスカイスクレーパーの形やデザインに影響を与えるのかについて分析。
- スカイトスカイスクレーパーの意味を形態学的な視点からの分析。
- Empire State Building についての具体的な分析。

結論：

建築と社会政治の関係を分析すると、スカイトスカイスクレーパーが都会をトランスフォームしていることが分かる。スカイトスカイスクレーパーの存在で、都会のスペースが凡庸的になっている。ビルの正面、texture、プロポーション等がビルに関係なく同じく見えるようになった。このコピーのような都会が進歩的や現代的なこととして捕らえているが、実際には都会のアイデンティティを盗んでいる。

建築家の役割の一つが、世界の人口に様々な選択を挙げることなのである。建築家が大衆カルチャーを崩すことにきっかけ、私たちも自己責任を取ることができる。